



アクセスコントロールルール

次の各トピックでは、アクセスコントロールルールの設定方法について説明します。

- [アクセスコントロールルールの概要 \(1 ページ\)](#)
- [アクセス制御ルール カテゴリの追加 \(7 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールの作成および編集 \(8 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールの有効化と無効化 \(9 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールの配置 \(10 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールのアクション \(11 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールのコメント \(14 ページ\)](#)

アクセスコントロールルールの概要

アクセスコントロールポリシー内では、アクセスコントロールルールによって複数の管理対象デバイスでネットワークトラフィックを処理するきめ細かい制御方法が提供されます。

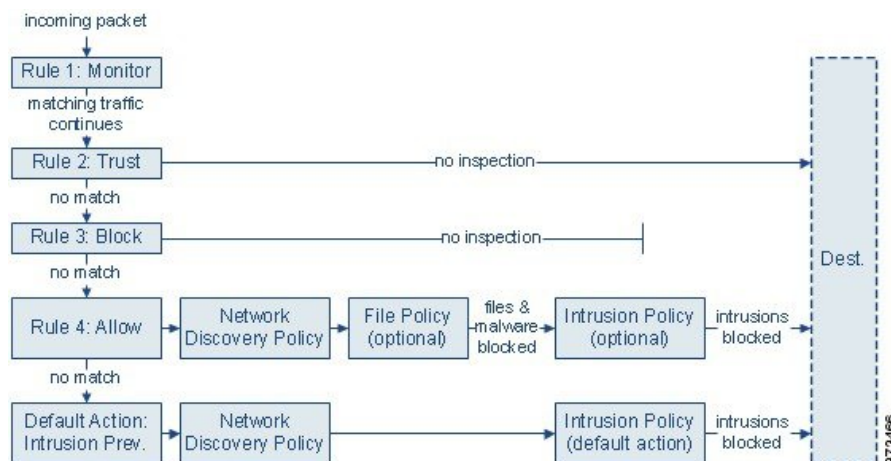


- (注) アクセスコントロールルールがネットワークトラフィックを評価する前に、8000 シリーズ高速パス、プレフィルタ評価、セキュリティインテリジェンスのフィルタリング、SSL インспекション、ユーザの識別、および一部の復号と前処理が発生します。

システムは、指定した順にアクセスコントロールルールをトラフィックと照合します。ほとんどの場合、システムは、すべてのルールの条件がトラフィックに一致する場合、最初のアクセスコントロールルールに従ってネットワークトラフィックを処理します。

また、各ルールにはアクションがあり、これによって一致するトラフィックをモニタ、信頼、ブロック、または許可するかを決定します。トラフィックを許可するときは、システムが侵入ポリシーまたはファイルポリシーを使用してトラフィックを最初に検査し、アセットに到達したりネットワークを出たりする前に、エクスプロイト、マルウェア、または禁止されたファイルをブロックするように指定できます。

次のシナリオでは、インラインの侵入防御展開環境で、アクセスコントロールルールによってトラフィックを評価できる方法を要約しています。



このシナリオでは、トラフィックは次のように評価されます。

- ルール1：モニタ**はトラフィックを最初に評価します。モニタールールはネットワークトラフィックを追跡してログに記録しますが、トラフィックフローには影響しません。システムは引き続きトラフィックを追加のルールと照合し、許可するか拒否するかを決定します。
- ルール2：信頼**はトラフィックを2番目に評価します。一致するトラフィックは追加のインスペクションなしで宛先まで通過することが許可されますが、引き続きアイデンティティの要件とレート制限の対象となります。一致しないトラフィックは、引き続き次のルールと照合されます。
- ルール3：ブロック**はトラフィックを3番目に評価します。一致するトラフィックは、追加のインスペクションなしでブロックされます。一致しないトラフィックは、引き続き最後のルールと照合されます。
- ルール4：許可**は最後のルールです。このルールの場合、一致したトラフィックは許可されますが、トラフィック内の禁止ファイル、マルウェア、侵入、エクスプロイトは検出されてブロックされます。残りの禁止されていない悪意のないトラフィックは宛先まで通過することが許可されますが、引き続きアイデンティティの要件とレート制限の対象となります。ファイルインスペクションのみを実行する、または侵入インスペクションのみを実行する、もしくは両方とも実行しない許可ルールを設定できます。
- デフォルトアクション**は、いずれのルールにも一致しないすべてのトラフィックを処理します。このシナリオでは、デフォルトアクションは、悪意のないトラフィックの通過を許可する前に侵入防御を実行します。別の展開では、追加のインスペクションなしですべてのトラフィックを信頼またはブロックするデフォルトアクションを割り当てることもあります。（デフォルトアクションで処理されるトラフィックでは、ファイルまたはマルウェアのインスペクションを実行できません。）

アクセスコントロールルールまたはデフォルトアクションによって許可したトラフィックは、自動的にホスト、アプリケーション、およびユーザーデータについてネットワーク検出ポリシーによるインスペクションの対象になります。検出は明示的には有効にしません、拡張したり無効にしたりすることができます。ただし、トラフィックを許可することで、検出データの収

集が自動的に保証されるものではありません。システムは、ネットワーク検出ポリシーによって明示的にモニタされる IP アドレスを含む接続に対してのみ、ディスクバリエーションを実行します。また、アプリケーション検出は、暗号化されたセッションに限定されます。

暗号化されたトラフィックの通過が SSL インスペクション設定で許可される場合、または SSL インスペクションが設定されていない場合は、そのトラフィックがアクセスコントロールルールによって処理されることに注意してください。ただし、一部のアクセスコントロールルールの条件では暗号化されていないトラフィックを必要とするため、暗号化されたトラフィックに一致するルール数が少なくなる場合があります。またデフォルトでは、システムは暗号化ペイロードの侵入およびファイルインスペクションを無効にしています。これにより、侵入およびファイルインスペクションが設定されたアクセスコントロールルールに暗号化接続が一致したときの誤検出が減少し、パフォーマンスが向上します。

アクセスコントロールルールの管理

アクセスコントロールポリシーエディタの[ルール (Rules)] タブでは、編集中のポリシーのアクセスコントロールルールの追加、編集、分類、検索、移動、有効化、無効化、削除、その他の管理が行えます。

ポリシーエディタでは、各アクセスコントロールルールに対してルールの名前、条件の概要、ルールアクションが表示され、さらにルールのインスペクションオプションや状態を示すアイコンが表示されます。各アイコンの意味は次のとおりです。

- 侵入ポリシー オプション (🛡️)
- ファイルポリシー オプション (📁)
- セーフサーチ オプション (🔒)
- YouTube EDU オプション (📺)
- ログイン オプション (📄)
- 発信元クライアント オプション (👤)
- コメント (💬)
- 警告 (⚠️)
- エラー (❗)
- 重要な情報 (ℹ️)

無効なルールはグレー表示され、ルール名の下に [(無効) ((disabled))] というマークが付きます。

ルールを作成または編集するには、アクセスコントロールルールエディタを使用します。次の操作を実行できます。

- エディタの上部で、ルールの名前、状態、位置、アクションなどの基本的なプロパティを設定します。
- エディタの左下にあるタブを使用して、条件を追加します。
- インспекションおよびロギングのオプションを設定し、さらにルールにコメントを追加するには、右下にあるタブを使用します。便宜上、どのタブを表示しているかに関係なく、エディタにはルールのインспекションおよびロギングのオプションがリストされます。



(注) アクセスコントロールルールの適切な作成と順序付けは複雑なタスクですが、効果的な展開を構築するためには不可欠です。ポリシーを慎重に計画しないと、ルールが他のルールをプリエンブション処理したり、追加のライセンスが必要となったり、ルールに無効な設定が含まれる場合があります。システムが想定どおりにトラフィックを確実に処理できるように、アクセスコントロールポリシーインターフェイスにはルールに対する強力な警告およびエラーのフィードバックシステムがあります。

関連トピック

[アクセスコントロールルールのコンポーネント](#) (4 ページ)

[例：カスタム ユーザ ロールとアクセス制御](#)

[ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)

アクセスコントロールルールのコンポーネント

一意の名前に加え、各アクセスコントロールルールには次の基本コンポーネントがあります。

状態 (State)

デフォルトでは、ルールは有効になっています。ルールを無効にすると、システムはそのルールを使用せず、そのルールに対する警告とエラーの生成を停止します。

位置 (Position)

アクセスコントロールポリシー内の各ルールには、1 から始まる番号が付きます。ポリシー継承を使用する場合、ルール 1 は再外部ポリシーの 1 番目のルールです。システムは、ルール番号の昇順で上から順に、ルールをトラフィックと照合します。モナルールを除き、トラフィックが一致する最初のルールがそのトラフィックを処理するルールになります。

また、ルールはセクションおよびカテゴリに属していることがあります。これは、単に整理のためであり、ルールの位置に影響しません。ルールの位置は、すべてのセクションとカテゴリにまたがって設定されます。

セクションおよびカテゴリ

アクセスコントロールルールの整理に役立つように、アクセスコントロールポリシーには、システムで用意されている 2 つのルールセクションとして「必須 (Mandatory)」と「デフォ

ルト (Default) 」があります。アクセスコントロールルールをさらに細かく整理するため、「必須 (Mandatory) 」セクション内と「デフォルト (Default) 」セクション内にカスタムルールカテゴリを作成することができます。

ポリシーの継承を使用する場合、現在のポリシーのルールは、その親ポリシーの「必須 (Mandatory) 」セクションと「デフォルト (Default) 」セクションの間にネストされます。

条件 (Conditions)

条件は、ルールが処理する特定のトラフィックを指定します。条件には単純なものと複雑なものがあり、ライセンスによって用途が異なります。

操作 (Action)

ルールのアクションによって、一致したトラフィックの処理方法が決まります。一致したトラフィックをモニタ、信頼、ブロック、または許可 (追加のインスペクションあり/なしで) することができます。信頼できるトラフィック、ブロックされたトラフィック、または暗号化されたトラフィックに対しては、詳細な検査は実行されません。

インスペクション (Inspection)

詳細検査オプションは、悪意のあるトラフィックをどのように検査してブロックし、それ以外のもは許可するかを決定します。ルールを使用してトラフィックを許可するときは、システムが侵入ポリシーまたはファイルポリシーを使用してトラフィックを最初に検査し、アセットに到達したりネットワークを出たりする前に、エクスプロイト、マルウェア、または禁止されたファイルをブロックするように指定できます。

ログ

ルールのロギング設定によって、システムが記録する処理済みトラフィックのレコードを管理します。1つのルールに一致するトラフィックのレコードを1つ保持できます。一般的に、接続の開始時または終了時 (あるいは、その両方) にセッションをログに記録できます。接続のログは、データベースの他に、システムログ (Syslog) または SNMP トラップサーバに記録できます。

説明

アクセスコントロールルールで変更を保存するたびに、コメントを追加できます。

関連トピック

- [ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)
- [アクセスコントロールルールの管理 \(3 ページ\)](#)
- [アクセスコントロールルールの作成および編集 \(8 ページ\)](#)
- [ルール条件タイプ](#)
- [アクセスコントロールルールのアクション \(11 ページ\)](#)
- [ディープインスペクションについて](#)
- [接続ロギングストラテジー](#)

[アクセスコントロールルールのコメント](#) (14 ページ)

アクセスコントロールルールの順序

アクセスコントロールポリシー内の各ルールには、1 から始まる番号が付きます。システムは、ルール番号の昇順で先頭から順にアクセスコントロールルールをトラフィックと照合します。

ほとんどの場合、システムは、すべてのルールの条件がトラフィックに一致する場合、最初のアクセスコントロールルールに従ってネットワークトラフィックを処理します。モニタールール（トラフィックをログに記録するが、トラフィックフローには影響しないルール）を除き、いずれかのルールとトラフィックが一致した後、システムは優先順位の低い追加ルールに対してトラフィックの評価を継続しません。

アクセスコントロールルールの整理に役立つように、アクセスコントロールポリシーには、システムで用意されている2つのルールセクションとして「必須 (Mandatory)」と「デフォルト (Default)」があります。さらに細かく整理するため、「必須 (Mandatory)」セクション内や「デフォルト (Default)」セクション内にカスタムルールカテゴリを作成することができます。カテゴリは、作成した後に移動することはできません。ただし、カテゴリを削除または名前変更したり、ルールをカテゴリ内またはカテゴリ間で移動したりすることはできません。システムはセクションとカテゴリに横断的にルール番号を割り当てます。

ポリシーの継承を使用する場合、現在のポリシーのルールは、その親ポリシーの「必須 (Mandatory)」ルールセクションと「デフォルト (Default)」ルールセクションの間にネストされます。ルール1は、現在のポリシーではなく、最外部ポリシーの1番目のルールです。ルールの番号は、すべてのポリシー、セクション、カテゴリにまたがって割り当てられます。

アクセスコントロールポリシーの変更を許可する定義済みユーザーロールによって、ルールのカテゴリ内またはカテゴリ間でアクセスコントロールルールを移動および変更することもできます。しかし、ユーザーがルールを移動および変更することを制限するには、カスタムロールを作成できます。アクセスコントロールポリシーの変更権限が割り当てられているユーザーは、制限なく、カスタムカテゴリにルールを追加することや、カテゴリ内のルールを変更することができます。



ヒント アクセスコントロールルールの順序を適切に設定することで、ネットワークトラフィック処理に必要なリソースを削減して、ルールのプリエンプションを回避できます。ユーザーが作成するルールはすべての組織と展開に固有のものです。ユーザーのニーズに対処しながらもパフォーマンスを最適化できるルールを順序付けする際に従うべきいくつかの一般的なガイドラインがあります。

関連トピック

[ルールの順序指定のガイドライン](#)

アクセス制御ルール カテゴリの追加

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

アクセス コントロール ポリシーの必須ルールセクションとデフォルトルールセクションをカスタムカテゴリに分割できます。カテゴリを作成した後は、そのカテゴリの削除と名前の変更に加え、カテゴリへのルールの挿入、ルールの削除、カテゴリ内またはカテゴリ間のルールの移動はできますが、カテゴリ自体の移動はできません。システムはセクションとカテゴリに横断的にルール番号を割り当てます。

手順

- ステップ 1** アクセス コントロール ポリシー エディタで、[カテゴリの追加 (Add Category)] をクリックします。

ヒント ポリシーにルールがすでに含まれている場合は、既存のルールの行の空白部分をクリックして、新しいカテゴリを追加する前にその位置を設定できます。既存のルールを右クリックし、[新規カテゴリの挿入 (Insert new category)] を選択することもできます。
- ステップ 2** 名前を入力します。
- ステップ 3** [挿入 (Insert)] ドロップダウン リストから、カテゴリを追加する先を選択します。
 - カテゴリをセクションのすべての既存カテゴリの下に挿入するには、[必須ルール内 (Into Mandatory)] または [デフォルトルール内 (into Default)] を選択します。
 - 既存のカテゴリの上に挿入するには、[カテゴリの上 (above category)] を選択した後、カテゴリを選択します。
 - アクセス制御ルールの上または下に挿入するには、[ルールの上 (above rule)] または [ルールの下 (below rule)] を選択した後、既存のルール番号を入力します。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックしてポリシーを保存します。

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

アクセスコントロールルールの作成および編集

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin



注意 アクセスコントロールポリシーによって使用される侵入ポリシーの総数の変更 設定の変更を展開する際に **Snort** プロセスが再起動され、一時的にトラフィックのインスペクションが中断されます。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インスペクションが行われずに受け渡されるかは、ターゲットデバイスがトラフィックを処理する方法に応じて異なります。詳細については、**Snort®** の再起動によるトラフィックの動作を参照してください。現在使用されていない侵入ポリシーを追加するか、侵入ポリシーの最後のインスタンスを削除することで、侵入ポリシーの総数を変更します。アクセスコントロールルールで侵入ポリシーをデフォルトのアクションまたはデフォルトの侵入ポリシーとして使用できます。

手順

ステップ 1 アクセスコントロールポリシーエディタには、以下のオプションがあります。

- 新しいルールを追加するには、[ルールを追加 (Add Rule)] をクリックします。
- 既存のルールを編集するには、編集アイコン (✎) をクリックします。

代わりに表示アイコン (🔍) がルールの横に表示される場合、ルールは先祖ポリシーに属しており、ルールを変更する権限がありません。

ステップ 2 [名前 (Name)] を入力します。

ステップ 3 以下のルールコンポーネントを設定するか、デフォルトを受け入れます。

- [有効 (Enabled)] : ルールを有効にするかどうかを指定します。
- [位置 (Position)] : ルールの位置を指定します。[アクセスコントロールルールの順序 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- [アクション (Action)] : ルールの [アクション (Action)] を選択します。[アクセスコントロールルールのアクション \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- [条件 (Conditions)] : 追加する条件に対応するタブをクリックします。詳細は、[ルール条件タイプ](#) を参照してください。

- [ディープ インスペクション (Deep Inspection)] : 許可ルールおよびインタラクティブブ
ロックルールの場合、侵入調査アイコン (🛡️) またはファイルおよびマルウェア調査ア
イコン (📁) をクリックして、ルールの [インスペクション (Inspection)] オプションを
設定します。アイコンが淡色表示の場合、そのタイプのポリシーがルールに選択されてい
ません。詳細については、[侵入ポリシーとファイルポリシーを使用したアクセス制御](#)を参
照してください。
- [コンテンツの制限 (Content Restriction)] : セーフサーチアイコン (🔒) または YouTube
EDU アイコン (🎓) をクリックして、ルールエディタの [アプリケーション
(Applications)] タブでコンテンツ制限設定を行います。アイコンが淡色表示の場合、ルー
ルに対してコンテンツ制限は無効になっています。詳細については、[コンテンツ制限につ
いて](#)を参照してください。
- [ロギング (Logging)] : アクティブな (青の) ロギングアイコン (📄) をクリックして、
[ロギング (Logging)] オプションを指定します。アイコンが淡色表示の場合、接続ロギ
ングがそのルールで無効になっています。詳細については、[接続ロギングストラテジー](#)を
参照してください。
- [コメント (Comments)] : コメント列の数字をクリックして、[コメント (Comments)] を
追加します。数字は、ルールにすでに含まれているコメントの数を示します。詳細につい
ては、[アクセスコントロールルールのコメント \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 ルールを保存します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックしてポリシーを保存します。

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

関連トピック

[ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)

アクセスコントロールルールの有効化と無効化

スマート ライセ ンス	従来のライセンス	サポートされるデ バイス	サポートされるド メイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

アクセスコントロールルールを作成すると、そのルールはデフォルトで有効になります。ルー
ルを無効にすると、システムはネットワークトラフィックの評価にそのルールを使用せず、そ

のルールに対する警告とエラーの生成を停止します。アクセスコントロールポリシーのルールリストを表示したときに、無効なルールはグレー表示されますが、変更は可能です。



ヒント また、ルールエディタを使用してアクセスコントロールルールを有効化または無効化することもできます。

手順

ステップ 1 アクセスコントロールポリシーエディタで、ルールを右クリックし、ルールの状態を選択します。

代わりに表示アイコン (🔍) がルールの横に表示される場合、ルールは先祖ポリシーに属しており、ルールを変更する権限がありません。

ステップ 2 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

関連トピック

[アクセスコントロールルールのコンポーネント](#) (4 ページ)

アクセスコントロールルールの配置

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

既存のルールは、アクセスコントロールポリシー内で移動できますが、アクセスコントロールポリシー間では移動できません。カテゴリにルールを追加または移動すると、そのルールはシステムによってカテゴリの最後に配置されます。



ヒント 複数のルールを一度に移動するには、移動するルールを選択し、右クリックメニューを使用してカットアンドペーストします。

手順

ステップ1 アクセス制御ルール エディタには、次のオプションがあります。

- 新しいルールを追加する場合は、[挿入 (Insert)] ドロップダウンリストを使用します。
- 既存のルールを編集する場合、[移動 (Move)] をクリックします。

ステップ2 ルールを移動またはルールを挿入する場所を選択します。

- [必須に挿入 (into Mandatory)] または [デフォルトに挿入 (into Default)] を選択します。
- [カテゴリに挿入 (into Category)] を選択して、ユーザ定義カテゴリを選択します。
- [ルールの上 (above rule)] または [ルールの下 (below rule)] を選択してから、適切なルール番号を入力します。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックしてポリシーを保存します。

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

アクセスコントロールルールのアクション

アクセスコントロールルールには、システムが一致するトラフィックをどのように処理し、ロギングするのかを指定するアクションがあります。モニタ、信頼、ブロック、または許可 (追加のインスペクションあり/なしで) することができます。

アクセスコントロールポリシーのデフォルトアクションは、モニタ アクセスコントロールルール以外のどの条件にも一致しないトラフィックを処理します。

アクセスコントロールルールのモニタ アクション

モニタ アクションはトラフィックフローに影響を与えません。つまり、一致するトラフィックがただちに許可または拒否されることはありません。その代わりに、追加のルールに照らしてトラフィックが照合され、許可/拒否が決定されます。モニタルール以外の一致する最初のルールが、トラフィックフローおよび追加のインスペクションを決定します。さらに一致するルールがない場合、システムはデフォルトアクションを使用します。

モニタルールの主な目的はネットワークトラフィックのトラッキングなので、システムはモニタ対象トラフィックの接続終了イベントを自動的にログに記録します。つまり、トラフィックが他のルールに一致せず、デフォルトアクションでロギングが有効になっていない場合でも、接続はログに記録されます。



- (注) ローカル内トラフィックがレイヤ3展開のモナルールに一致する場合、そのトラフィックはインスペクションをバイパスすることがあります。トラフィックのインスペクションを確実に実行するには、トラフィックをルーティングしている管理対象デバイスの詳細設定で[ローカルルータ トラフィックの検査 (Inspect Local Router Traffic)]を有効にします。

関連トピック

[モニタされた監視接続のロギング](#)

アクセスコントロールルールの信頼アクション

[信頼 (Trust)]アクションは、ディープインスペクションやネットワーク検出をせずにトラフィックを通過させます。信頼処理されたトラフィックも、ID条件およびレート制限の対象です。

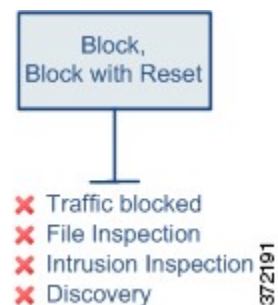


関連トピック

[信頼されている接続のロギング](#)

アクセスコントロールルールのブロックアクション

ブロックアクションおよびリセットしてブロックアクションはトラフィックを拒否し、いかなる追加のインスペクションも行われません。リセットしてブロックルールでは接続のリセットも行います。



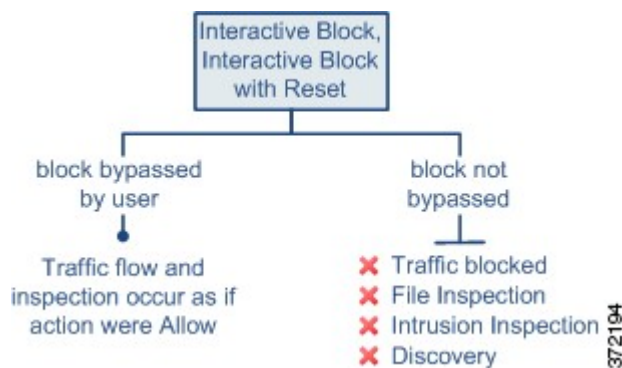
Web リクエストをブロックした際、HTTP 応答ページを表示できます。[HTTP 応答ページとインタラクティブブロッキング](#)を参照してください。

関連トピック

- [ブロックされた接続のロギング](#)
- [HTTP 応答ページについて](#)

アクセスコントロールルールインタラクティブブロックアクション

インタラクティブブロックアクションおよびリセット付きインタラクティブブロックアクションを使用すると、ユーザはカスタマイズ可能な警告ページ（HTTP 応答ページと呼ばれます）をクリックスルーするか、リフレッシュすることで、Web サイトのブロックをバイパスできます。リセット付きインタラクティブブロックルールでは接続のリセットも行います。詳細については、[HTTP 応答ページとインタラクティブブロッキング](#)を参照してください。



ユーザがブロックをバイパスする場合、ルールは許可ルールを模倣します。したがって、ユーザは、どちらかのタイプのインタラクティブブロックルールをファイルポリシーと侵入ポリシーに関連付け、このユーザ許可されたトラフィックを検査できます。システムがネットワーク検出で検査することもできます。

ユーザがブロックをバイパスしない（できない）場合は、ルールはブロックルールを模倣します。一致するトラフィックは、追加のインスペクションなしで拒否されます。

関連トピック

- [許可された接続のロギング](#)
- [SSL ルール：ブロッキングアクション](#)

アクセスコントロールルールの許可アクション

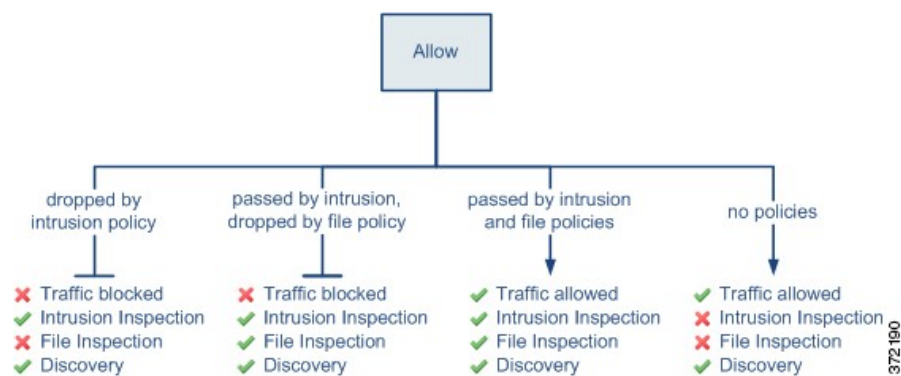
[許可 (Allow)] アクションは、一致するトラフィックを通過させます。ただし、引き続き ID 条件およびレート制限の対象となります。

任意で、ディープインスペクションを行い、トラフィックが接続先に到達する前に暗号化されていないトラフィックや復号されたトラフィックを検査、ブロックすることも可能です。

- 侵入ポリシーでは、侵入検知と防御設定に応じてネットワークトラフィックを分析し、設定内容に応じて違反パケットをドロップすることが可能です。

- ファイルポリシーでは、ファイルの制御ができます。ファイル制御により、ユーザが特定のアプリケーションプロトコルを介して特定のタイプのファイルをアップロード（送信）またはダウンロード（受信）するのを検出およびブロックすることができます。
- ファイルポリシーでは、ネットワークベースの高度なマルウェア防御（AMP）を実行することもできます。ネットワーク向け AMP は設定に応じて、マルウェアがないかファイルを検査し、検出したマルウェアをブロックします。

下の図は、許可ルールの条件（またはユーザによりバイパスされるインタラクティブブロックルール）を満たすトラフィックに対して実行されるインスペクションの種類を示しています。侵入インスペクションの前にファイルインスペクションが行われることに注意してください。そこでブロックされたファイルに対しては、侵入関連のエクスプロイトについては検査されません。



シンプルにするために、この図では、侵入ポリシーとファイルポリシーの両方がアクセスコントロールルールに関連付けられている状態（またはどちらも関連付けられていない状態）のトラフィックフローを示しています。ただし、どちらか1つだけを設定することも可能です。ファイルポリシーがない場合、トラフィックフローは侵入ポリシーによって決定されます。侵入ポリシーがない場合、トラフィックフローはファイルポリシーによって決定されます。

トラフィックが侵入ポリシーとファイルポリシーのどちらかによって検査またはドロップされるかどうかに関わらず、システムはネットワーク検出を使ってトラフィックを検査できます。ただし、トラフィックを許可しても、ディスカバリ検査が自動的に保証されるわけではありません。システムは、ネットワーク検出ポリシーによって明示的にモニタされる IP アドレスを含む接続に対してのみ、ディスカバリを実行します。また、アプリケーション検出は、暗号化されたセッションに限定されます。

関連トピック

[許可された接続のロギング](#)

アクセスコントロールルールのコメント

アクセスコントロールルールを作成または編集するときは、コメントを追加できます。たとえば、他のユーザのために設定全体を要約したり、ルールの変更時期と変更理由を記載するこ

とができます。あるルールの全コメントのリストを表示し、各コメントを追加したユーザやコメント追加日を確認することができます。

ルールを保存すると、最後に保存してから追加されたすべてのコメントは読み取り専用になります。

関連トピック

[アクセスコントロールポリシーの設定の構成](#)

アクセス制御ルールへのコメントの追加

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

手順

-
- ステップ 1** アクセスコントロールルールエディタで、[コメント (Comments)] タブをクリックします。
 - ステップ 2** [New Comment] をクリックします。
 - ステップ 3** コメントを入力し、[OK] をクリックします。ルールを保存するまでこのコメントを編集または削除できます。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックしてポリシーを保存します。
-

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

